

平成28年度 小・中学校における環境教育の取組み

教科名 理科・社会科・総合的な学習の時間（第3、4学年）

テーマ【 太子町の環境とカワバタモロコ 】

太子町立山田小学校

《学習のねらい》

- ・四季の自然観察と生き物の様子の学習と関連付け、絶滅危惧種のカワバタモロコの飼育・観察を行い、太子町の自然の大切さに気づく

《学習の流れ》

実施時期 1月 ～ 3月

① カワバタモロコの出張授業

3年の3学期にゲストティーチャーから太子町内にいるカワバタモロコについて教えてもらい、来年自分たちで維持管理することを知る。

4年生ではビオトープを含めて1年を通じて自然を観察をしながら維持管理を行う。

町内探検において、緑化地域が残っていることを知る。

② 4年 学校ビオトープ池に棲む生き物を知る。（春）

絶滅危惧種を校内のビオトープで繁殖をさせていることを知る。

③ 四季の自然観察（梅雨時期）

定点観察による生き物の観察。

特に梅雨の時期は婚姻色（金色）に変化していることを知る。

④ 中学校の社会科学部との連携（適宜）

現在のビオトープの生き物調査等を適宜してもらっており、その状況報告を教えてもらう。

⑤ 社会科・総合的な学習「私たちの太子町」「大和川のつけかえ」の学習と合わせて、ゴミ問題や水環境の保全方法について考え、自分たちでできることを調べる。（3学期）

《指導のポイント》

- 南河内では太子町のただ1つのため池にしか棲んでいない絶滅危惧種のカワバタモロコを四季を通じて観察をする。特に梅雨の時期の婚姻期間を知る。メダカ同様に、地域によってその種が少しずつ違うことを学習しながら、太子町のカワバタモロコを育てていることを知らせ、意欲を高める。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

自然ボランティア「太子 e メガネ」

太子町立中学校 社会科学部

地域教材 「わたしたちの太子町」【中学年社会科資料】

《成果（児童・生徒の感想や反応 等）》

- ・ 自分たちの町を誇りを持てるようになっている。